

北見武道通信

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

ニュースレター【事務局情報】剣道着を着用しての「稽古」がスタートしました！



北見市武道館
(道場2) 奥瀬
空(おくせそ
ら)ちゃんと、
伊藤敬之甫(い
とうけいのす

け)くん小学1年生の二人は待ちにまった剣道着を着用しての稽古が始まりました。大きな声と素早い動きの元気な稽古風景は最近習い始めたとはとても思えません。指導者の佐藤怜子先生の「いいよ！いいよ！」の言葉にも真剣な眼差しでうなづく二人に、先生は嬉しそうに目を細めていました。令和元年8月1日武道通信441号で紹介した



ときに比べると、僅か一ヶ月足らずで大きな進歩が見てとれました。(佐藤)



道振興協会事務所の花シリーズ 番外編「松平宅のエゾリス」

北見市武道館の東陵公園にもエゾリスが生息していますが、市内でオープンガーデンを解放している松平さんの自宅温室前にもエゾリスがよく来ます。私は今年三度もエゾリスに出会いました。声をかけても近くをチョロチョロし逃げません。悠々と撮影させてくれたエゾリスに感激して家路に着くことが出来ました。(渋谷)



連載「武道宝鑑」第22弾 剣術極意(千葉周作遺稿『剣法秘訣』より)剣術修行心得(23回目)

三つの挫きという事あり、一つは太刀を殺し、一つは業を殺し、一つは気を殺すをいう。太刀を殺すというは、向こうの太刀を右へ押へ、^{あるい}或は拂いなどして、向こうの切先を立てさせぬをいうなり。又業を殺すというは、向うよく業をする者ならば、二段突き、又は突き懸け、^{もろてめん}或は諸手面などを仕懸け、打ち突きの外ずるるともかまわず、向こうの手元へ寄ると、透き間なく、足がら、或は候ち倒し、又は^{たいあた}體當りにて突き倒しなどすること、^{およ}凡そ三、^ど四度もすれば、向こう如何なる業早き者にて、其の勢いに挫かれ、業の出来ぬものなり、且つその勇氣に恐れ、^{とて}逆も及ばぬと^{およ}気も挫け、^{はなは}甚だ^{あつか}遣いよくなるものなり、^{これ}之を三つの挫きという。二段突きとは、向こうの右籠手を打たんとする色を示せば、向こうの籠手を防がんとして・・・つづく